

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、常日頃、格別のご高配を賜わり、厚く御礼を申し上げます。

平成26年度上半期は、原子力プラントが再稼働できず、電力の需給、事業の収支ともに厳しい状況が続く中、電力の安全・安定供給をはじめ変わらぬ使命を果たしながら、直面する課題を解決するとともに、電力システム改革など経営環境の激変にも備えるため、安全最優先の確実な業務遂行をはじめとする「ベースアクション」と、将来の競争本格化を視野に備えを進める「変革アクション」に、日々全力で取り組んでまいりました。

とりわけ、東日本大震災以降初めて原子力ゼロで迎えたこの夏場は、定期点検を繰り延べての火

力発電所の高稼働に全力を尽くすとともに、設備更新工事中の姫路第二発電所新4、5号機の営業運転開始時期を前倒するなど、最大限の供給力確保に努めました。また、気温が低く推移したことや、昨年以上にお客さまから節電・省エネルギーへのご協力を賜りましたことから、何とか電力の需給安定を保つことができました。

株主のみなさまには、格別のご理解、ご協力を賜りましたことに、厚く御礼を申し上げます。また、今冬についても、電力の需給は依然として厳しい見込みであるため、着実な節電・省エネルギーにご協力賜りますようお願い申し上げます。

当社グループの上半期決算については、グループ事業における利益が寄与したことにより、連結決算における経常利益は18億円、純利益は26億円となりましたが、電気事業において厳しい経営環境が継続していることから、個別決算は赤字となりました。

このように、収支状況は厳しく、今後の経営環境も依然として不透明であることなどから、中間配当については実施しないことといたしました。

株主のみなさまには、度重なるご迷惑をおかけすることとなり、誠に申し訳ございませんが、何卒ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

目次

	ページ
株主のみなさまへ	1
事業の概況	3
連結財務諸表	5
個別決算の概要 その他	7
かんでんNOW	8
インフォメーション	12

平成26年度下半期は、引き続き、原子力プラントの再稼働や収支の改善などの喫緊の課題解決に、当社グループの総力を結集するとともに、目前に迫った電力の小売全面自由化による競争本格化に備え、戦略や事業基盤の構築に拍車をかけてまいります。

原子力プラントの再稼働については、高浜発電所3、4号機に関し、新規制基準適合性に係る審査会合における、地震、津波、竜巻等の設定や重大事故対策に係るご指摘を真摯に受け止め、対応が必要な内容を反映したうえで、10月31日に原子炉設置変更許可申請の補正書を原子力規制委員会へ提出いたしました。引き続き、国の審査に真摯かつ迅速に対応するとともに、立地地域をはじめ、広く社会のみなさまに、再稼働の必要性や安全性向上の取組み等を丁寧にご説明し、ご理解を賜わるよう全力を尽くしてまいります。

あわせて、当社といたしましては、規制の枠組みにとどまることなく、安全性向上対策を自主的かつ継続的に進め、世界最高水準の安全性を追求してまいります。

収支の改善については、あらゆる経営効率化方を追求し続けるとともに、情報通信事業等を含めた当社グループ全体の収益の拡大に取り組んでまいります。

競争本格化への備えについては、電源競争力の強化、新たな営業戦略や料金メニューの考案、異業種

とのアライアンスなど、競争を勝ち抜く事業戦略の検討、実施を進めてまいります。

また、新技術等を活用した設備形成の効率化や運用・保全の高度化、ITを活用した業務プロセスの改革、発注方法の多様化等の調達改革など、機能的で効率的な事業基盤の構築を早急に進めてまいります。

当社グループは、CSRを経営の基軸に、これらをはじめとする諸施策を実行することにより、「お客さまと社会のお役に立つ」という変わらぬ使命を果たすとともに、株主のみなさまのご期待にお応えできるよう全力を尽くしてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

平成26年11月



取締役会長 森 詳介



取締役社長 八木 誠